

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第2回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成27年4月16日（木）午後6時 ～ 9時
開 催 場 所	中部地区会館401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）渡辺龍也、北口良夫、瀬口圭志、中村政義、本間由美子、前田啓子、比留間毅浩、山田行雄 欠席者：鴻田臣代 一般参加者：3名 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
議 題	議題1 平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評価等について 議題2 事業評価について 議題3 次回以降の会議の開催日程について
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1 平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評価等について 事業実施団体から事業の報告を行い、各委員から事業について質疑応答を行った。 議題2 事業評価について 報告書については、事務局で各委員の意見を取りまとめて後日各委員に送付し、内容の確認を行う。その後の修正については、座長及び副座長に一任する。 議題3 次回以降の会議の開催日程について 委員を新たに選任し、日程等については改めて通知する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発信者) □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：協働担当課 ◎印：一般参加者	議題1 平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会及び評価等について (平成26年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会) 団体名：いつひよファミリー～with 石田倫依 事業名：ひろげよう！子育て支援の輪プロジェクト -実施団体による報告- 質疑応答 ○ 消耗品について、予算と決算の額が大きく変わっている。 △ 当初は備品と考えていた物が、消耗品にあたるなどの解釈の違いがあったためである。 ○ 事業の対象年齢は。 △ 0歳児から18歳までを対象にしているが、特に支援を必要とする0歳児が中心となっている。 ○ 自己評価において、特に協働についての項目が市の担当課と団体の評価が大きく異なっている箇所がある。 △ 情報共有や連携が十分ではなかったと感じている。 ▲ 今後は細かく連携を図りながら事業を行っていきたい。

- 団体育成型の時は子育て支援課と連携していたという話があったが、なぜ協働型事業では保育課を協働相手としたのか。
- 児童館を利用した事業を実施したいという内容の提案であったので、児童館を所管する保育課が適切であると考えた。
- 行き違いという表現があるが、具体的にはどのようなことか。
- △ 事業を提案してから実施するまでの間に、市の担当課で人事異動があり、前任者からの情報伝達や引継ぎが十分にされていない部分があったと感じている。
- 議事録や打ち合わせの記録等を、団体としても残しておけば良かったのではないか。
- 送ったメールに対し、返信をもらうことも必要である。
- 26年度の反省を踏まえ、今後事業を実施していく上で市の担当課に対し改善してほしい点はどのようなことか。
- △ 役割分担を明確にすることが今後重要であると考えている。また、事業を実施する上で団体として安全の確保に尽力していくが、責任の所在についても明らかにしたい。
- 協働事業として事業を実施する以上は、市の担当課と団体が共に責任を持たなければならない。
- 委託事業であれば市が責任を負うものだが、協働事業においては判断が難しい。今後明確にしなければならない。
- 現在は自己財源が無いが、協働事業終了後の資金についてはどう考えているのか。
- △ 事業収入を考えている。また、残堀・伊奈平地区児童館については、これまでの事業実施により備品等が揃っているため、参加者が自主的に活動できる環境になっている。
- 26年度のように、年度の途中で予算が大幅に変わる場合は報告をしていただきたい。また、新たに気付いた課題について、市のサービスと市民のニーズのズレを埋める工夫が必要とあるが、具体的にはどのようなことか。
- △ 子育てをしている親のニーズは、子育ての段階によって変わってくる。実際に子育てをしている親と直接関わることで市民の生の声を吸い上げ、それを市に届けられたらと考えている。
- 決算書の各項目に、詳細な内訳が記載されていない。内訳を記載して再提出していただきたい。

団体名：グラシオスプラントパートナー
 事業名：小学生への花育と豊かな環境作り

-実施団体による報告-

質疑応答

- 決算書のその他の項目は具体的にどのような経費を予定していたのか。
- △ 植栽の勉強会を開催する予定である。
- 市内の全ての小学校で事業を実施したのか。
- △ そのとおり。毎年3校ずつ実施し、3年間で9校実施した。
- 花の苗の単価は。
- △ 安価な物から高額な物まで様々だが、1年で枯れてしまう花は、1

株100円程度である。

- 今年度からは協働型事業としての実施になるが、これまで実施してきた小学校へのフォローは行うのか。
- △ 団体育成型での3年間で子供達の技術が上達し、校内の花壇については子供達に任せられるようになった。今後は花育に興味を持った子供達を中心に、寄せ植えの講習会を実施したいと考えている。
- 今後は学校単位ではなくなるということだが、子供達と同様に先生に対しても花育を教えていくのが望ましいのではないかと。
- △ 子供達だけではなく先生にも続けてもらえるよう工夫していく。
- 3年間団体育成型として事業を実施してきたが、団体としてどのような点が成長したか、今後どのように発展していきたいか、二点伺いたい。
- △ 今後は協働型事業として、学校だけではなく市内の様々な場所で事業を行っていくので、武蔵村山市を花と緑でいっぱいの街にしたいと考えている。また、市民を集めた植栽のイベント等を開催し、会員を増やせたらと考えている。
- 将来的にNPO化は検討しているのか。
- △ 検討はしているが、まだまだ団体として力量不足であると感じている。今後も活動を続けて実績を積み重ねていけば、NPOという肩書が必ずしも必要であるとは考えていない。
- 会員数は3年前と比べてどれくらい増えたのか。
- △ 3年前は5人程度だったが、現在は20人程度である。
- 七小と十小は2回ずつ事業を実施しているが、村山学園は1回だけである。理由は。
- △ 学校と調整できなかったためである。
- 今後の財源の確保の見込みは。
- △ 他の補助金を検討しており、ボランティア・市民活動センターの力を借りながら探している。

議題2 事業評価について

- 本会議では、評価に係る協議は非公開情報として扱うので、ここからは非公開とする。

-ここから非公開-

議題3 次回以降の会議の開催日程について

- 平成27年度市民協働推進会議を組織し、改めて通知する。

会議の公開・ 非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 ()	傍聴者： <u>3</u> 人
-----------------	---	-----------------

会議録の開示・ 非開示の別	<input type="checkbox"/> 開示 <input checked="" type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)	
------------------	---	--

庶務担当課	協働推進部 協働推進課 (内線： 242)	
-------	------------------------	--

(日本工業規格A列4番)